

研究

アインシュタインの東工大訪問 (1922年)

柴田 利明

アインシュタインは1922年に蔵前の東京高等工業学校（現東京工業大学）を訪問したが、ここに掲載するのはそのときの写真である。アインシュタインはこの年に43日間にもわたり日本各地を旅行して講演などを行った^[1]。アインシュタインはヨーロッパから日本への船旅の途中でノーベル賞受賞の知らせを受けている。

私が探していたこの写真のデジタルコピーを、最近、東工大が蔵前工業会から譲り受けたので、それを機会にここに紹介することにしました。蔵前工業会、および東工大広報担当の方々のご厚意、尽力に感謝します。

1905年のアインシュタインの3つの著名な業績「光量子の理論」、「ブラウン運動の理論」、「特殊相対性理論」から100年たったのを記念して国連は2005年を世界物理年と定め、世界各地で行事が行われている。日本でも講演会や理科教育のイベントが、世界物理年日本委員会、文部科学省、日本物理学会、応用物理学会、日本天文学会、日本物理教育学会、日本生物物理学会、電気学会などの主催により企画・運営されている。東工大の教員や学生も、いろいろな形でこれに参加している。

[1] 例えば、金子務著「アインシュタイン・ショック I, II」岩波書店



1922年に東京高等工業学校（現東京工業大学）を訪問したアインシュタイン

（理工学研究科基礎物理学専攻 教授）

国際化

東工大生のための留学フェア (すずかけ台・大岡山)

佐藤 由利子

学生の派遣交換留学を促進するための留学フェアを、5月17日にすずかけ台キャンパスで、25日に大岡山キャンパスで開催した。全体説明とブース別個別相談の2部から構成され、すずかけ台で約40名、大岡山で約150名の学生が参加した。

5月17日すずかけホールで開かれた留学フェアでは、冒頭、石原宏総合理工学研究科長が「自分のアイデンティティを確立し成長する機会として海外留学を捉え、どんどん海外に出る機会を作ってほしい」とご挨拶をされた。引き続き IAESTE の杉山大二郎さんより海外インターンシップの説明、カリフォルニア大学に留学した原田健さんより留学体験の紹介があった。原田さんは事前の英語学習と指導教員との十分な打ち合わせの必要性に触れ、寮生活を通じ多くの友人を作り、留学体験が非常にプラスになったと語った。

またドイツ学術交流会 (DAAD) の米田成子さんが、ドイツ留学の魅力と奨学金制度について紹介し、外国語研究教育センターの里見達郎教授（フランス語）と山崎太郎助教授（ドイツ語）が、米国に匹敵する経済圏に成長し、科学技術分野論文発表数世界一の EU に留学する意義と、奨学金や語学面での準備について助言された。このほか、国際教育交換協議会 (CIEE) の景山傑さんが TOEFL や国際ボランティアプログラムについて、留学生課の上田英一さんが交換留学制度について、都市地震工学センターの鶴田洋子研究員（国際室オブザーバー）が単位認定制度とアンケートについて、留学生センターの工藤美奈子さんが語学研修やメールニュースについて、説明を行った。

第2部では第1部での発表者に加え、カリフォルニア大学東京スタディセンターの高橋副所長、CIEE 掘越部長、また協定校からの交換留学生や派遣留学や海外プログラムの体験者が参加し、協定校やプログラム別に8つのブースで情報提供を行った。

5月25日に大岡山西9号館多目的デジタルホールで開かれた留学フェアでは、小川浩平副学長が「10年、20年、30年後のなりたい自分のイメージを